

ダニエル書-第十三番

終末の秘密

Jeff Pippenger

2023-12-08

ダニエル書2章は、黙示録14章の第二の天使を表している。その意味でそれは、三つの試験のうち第二のものを指し、その三つとは、食事の試験に始まり、次いで視覚の試験が続き、最後に試金石となる試験で締めくくられるものである。預言的な道標でもあるこれら三つの試験は、黙示録14章の第一の天使のメッセージの中に含まれている。黙示録14章の第一の天使の場合と同様に、ダニエル書1章にもそれら三つの試験がすべて備わっている。

第二の試験、すなわち第二の天使のメッセージは、第一の試験の終わりに始まる。第2章は第1章の後に続く。第二の試験の結論が、そのまま間をおかずに第三の試験の始まりとなる。第二の試験で表される期間は、ダニエルの捕囚の七十年によって象徴されており、それはエホヤキムが征服されたことに始まり、キュロスの勅令で終わった。その七十年の終わりが近づくとつれて、ダニエルは神の預言のことばを通して、終わりがまもなく到来しようとしていることを悟った。

アハシュエロスの子でメディア人の血筋に属するダリウスがカルデヤの国の王にされたその第一年に、彼の治世の第一年に、私ダニエルは、書物によって、主の言葉が預言者エレミヤに臨み、エルサレムの荒廃が七十年で満ちると告げられていた年数を悟った。ダニエル書 9:1, 2.

ダニエルは、七十年の捕囚の象徴的意味を認識する終末時代の神の民を表しており、その認識は象徴的な七十年が終わる直前に起こる。神の民は七十年の捕囚を正しく理解してきたが、ダニエルが表しているのは、その七十年が2001年9月11日から日曜法に至るまでの預言的期間を表すという理解である。ダニエルにとって、その年数はキュロスの勅令によって終わったが、終末時代においてそれはアメリカ合衆国の日曜法を表している。

日曜法の直前に、神の民は、象徴的な七十年によって表される預言的理解に目覚める。その象徴的な七十年はエホヤキムから始まり、彼は2001年9月11日を表している。そのとき、第三の災いとしてのイスラムの到来とともに、黙示録18章の力ある天使が下ってバビロンの倒壊を宣言した。バビロンの倒壊は第二の天使のメッセージを表しており、2001年9月11日には、天使の手にあった隠された書物を食べた者たちにとって第二の試験の期間が始まった。その期間は、象徴的な七十年によって表され、日曜法に至るまで続く。

終わりが近づくとつれ、ダリウスの第一年のダニエルに象徴されるように、神の民は獣の像の試験に目を覚まさせられる。彼らは以前から、獣の像の試験に関連するいくつかの真理を理解してはいたが、第二の天使の預言的期間の終わりの直前に彼らが理解することになる部分は、暗闇に隠されていた。ダニエルが神の預言の御言葉を学び、七十年の意義に気づいたとき、彼は祈りに導かれた。それは、彼がネブカドネツアルの像の夢をめぐる命にかかわる脅しを悟ったときに祈りに導かれたのと同様であった。ダニエル書第九章

においても、第二章と同様に、ダニエルが祈ると、彼は預言的な光を受けた。

さて、わたしがなお祈りのうちに語っていると、初めに幻の中で見たあの人ガブリエルが、速やかに飛んで来て、夕のささげ物のころにわたしに触れた。彼はわたしに告げ、わたしと語り、こう言った。「ダニエルよ、今、あなたに知恵と悟りを与えるために出て来た。」ダニエル書 9:21、22。

祈りの中でダニエルに与えられた「知恵と悟り」は、第二章の彼の祈りと一致している。

そこでダニエルは自分の家に帰り、仲間のハナニヤ、ミシャエル、アザリヤにそのことを知らせ、この奥義について天の神のあわれみを求めるように願った。ダニエルとその仲間が、バビロンのほかの賢者たちとともに滅ぼされることのないようにするためであった。すると、夜の幻のうちに、この奥義がダニエルに明らかにされた。そこでダニエルは天の神をほめたたえた。ダニエル書 2:17-19。

行に行を重ねて見ると、ダニエルの二つの祈りは同じ祈りである。いずれも、2001年9月1日と、やがて到来する日曜法の間にかかる第二の天使の目に見える試験を象徴的に表す歴史の期間中に、ささげられている。ネブカドネツアルによる差し迫った死の脅威のもと、また、エレミヤの七十年とモーセの七たびの誓いに関する預言的知識をもって、ダニエルはレビ記26章の祈りをささげ、同時に、神が彼に聖書預言の最終的な奥義を啓示してくださるようお願い求める。それはヨハネが「イエス・キリストの啓示」と呼んでいる奥義である。

第9章で、ダニエルは二つの王国の転換期に位置している。ダリウスの第一年であるため、バビロンはちょうどメディアとペルシャに陥落したばかりであり、こうして終わりの時の神の民は、第一の天使の運動と第三の天使の運動において示された転換点に置かれる。

ミラー派のフィラデルフィア運動は1856年にラオデキアへと移行し、フューチャー・フォー・アメリカのラオデキアの運動は、黙示録第十一章における通りで死んでいる三日半の終わりに、フィラデルフィアの運動へと移行する。1856年から1863年までのミラー派のフィラデルフィア運動で失敗した試練は、「七つの時」の教義に関するものであった。

フューチャー・フォー・アメリカのラオデキア的運動に対する試金石は、彼らが自らの離散した状態を認識する必要性、そして続いてレビ記26章の祈りと経験へと入ることに関するものである。ダニエルは、バビロン帝国とメド・ペルシャ帝国の移行期、すなわちキュロス王の勅令によって示される七十年の期間の終わりの直前にいた。この七十年はダニエルの祈りの文脈であり、またモーセの「七つの時」を表している。ダニエルの二つの祈りは、第一の天使の運動においても第三の天使の運動においても、「七つの時」によって示されるその移行期と一致している。

ダニエルに啓示された「奥義」は、ネブカドネツアルの像に関する啓示である。終わりの時におけるネブカドネツアルの像の「奥義」とは、それが四つではなく八つの王国を表しているということである。「七つのうちの八番目」というカテゴリーにある以前の記事で、この真理はすでに提示されている。その奥義には、「七つに属する八番目」が到来する移行点の啓示が含まれている。ネブカドネツアルの像の「奥義」は、真のプロテスタン

ティズムの角と共和主義の角の復活の確証である。これら二つの復活は、各々の角が八番目であり、しかし七つに属していることを示している。そして両方の角における第六から第八への移行は、モーセの「七たび」に結びついた試練という預言的文脈の中で起こる。その移行は、ダニエルが表しているように、米国における日曜法の布告を象徴するキュロス王の勅令の直前に起こる。さらに日曜法において、急速な展開の中で、ダニエル書2章のネブカドネツアルの像に表されているように、教皇制もまた預言的な移行を経て「七つのうちの八番目」の頭となり、その致命的な傷が癒やされる。

それでダニエルは、王がバビロンの賢者たちを殺すように任じていたアリオクのもとに入り、彼にこう言った。「バビロンの賢者たちを殺してはなりません。私を王の前に連れて行ってください。そうすれば、王にその解き明かしを示します。」そこでアリオクは急いでダニエルを王の前に連れて行き、王にこう言った。「ユダの捕囚の者の中から、王にその解き明かしを知らせることができる者を見つけました。」王は名をベルテシャツアルというダニエルに答えて言った。「おまえは、私が見た夢とその解き明かしを私に知らせることができるのか。」ダニエル書 2:24-26。

ダニエルがその「秘密」を知らされると、彼の両名が言及され、彼が契約の民、すなわち終わりの時にちょうど十四万四千人のフィラデルフィア運動へと移行した者たち、を代表していることが示される。彼は、「秘密」を理解できないことを理由に誰も殺害されないように願い出ること、神のしもべの品性を現す。彼の品性は、ダニエルを見つけ出した功績を王に認めてもらおうとするネブカドネツアルのしもべアリオクと対照的である。次にダニエルは、ネブカドネツアルの問いに問いで答えることによって、真の預言的顕現とバビロンの賢者たちのそれとの相違を明らかにし、さらにアリオクとは異なり、その「秘密」の理解を自己の宣伝に利用するのではなく、かえって天の神をあがめる。

ダニエルは王の前で答えて言った。「王が求めておられる秘密は、賢者も、占星術師も、魔術師も、占い師も、王に示すことはできません。しかし、天には秘密を明らかにされる神がおられ、後の日に何が起こるかをネブカドネザル王に知らせておられます。あなたの夢、すなわち寝床であなたの頭に浮かんだ幻は、こうです。」ダニエル書 2:27、28。

ダニエルはその「奥義」の提示を、それが「終わりの日に何が起こるか」を説明する奥義であることを示すことから始める。七つの雷の隠された歴史の奥義は、終わりの日に何が起こるのかを明らかにする。ネブカドネザルの像は、猶予期間が終わる直前に封印が解かれる終わりの日の奥義の一要素である。それは、ダリウスの第一年のダニエルにより表されているように、地からの獣の二本の角が「第八であり、また七つのうちの一つである」ものとなる移行期、すなわち猶予期間が終わる直前に明らかにされる。

王よ、あなたが寝所にあるとき、後に何が起こるべきかという思いがあなたの心に上りました。そして、奥義を明らかにされる方が、後に起こることをあなたに知らされました。しかし私については、この奥義が私に明かされたのは、私がほかのどの生ける者にもまさる知恵を持っているからではなく、王に解き明かしを知らせるため、またあなたが心の思いを知るためです。ダニエル 2:29、30。

ダニエルは、「奥義を明らかにされる方が、あなたに起こるべき事を知らせられる」「後の日に」と語ることで、ネブカドネツアルの夢が末の日に関するものであるという事実を、第二の証しをもって確証する。次にダニエルは、その奥義は自分のために、また彼がほかの人間よりも優れた知恵をもっていたから与えられたのではなく、むしろ「解き明かしを知らせる者たちのために」ネブカドネツアルに与えられたのだと明らかにする。その「奥義」は、終わりの時にバビロンの霊的な王にその夢の「解き明かし」を告げる者たちのために与えられたのである。その「奥義」は特に十四万四千人のために与えられた。というのも、その「奥義」は、終わりの時にバビロンの最終的な滅びを宣言する者たちのためのものだからである。そしてダニエルは、暗闇に隠され、生死を分ける試練を生み出した像の夢を明らかにする。

王よ、あなたはご覧になりました。見よ、大いなる像があったのです。その大いなる像は、輝きがひときわすぐれており、あなたの前に立ち、その姿は恐るべきものでした。その像の頭は純金、胸と両腕は銀、腹とももは青銅、脚は鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。あなたが見ていると、人手によらずに切り出された一つの石が、鉄と粘土の足を打って砕きました。すると、鉄も粘土も青銅も銀も金も、みな一緒に粉々に砕け、夏の打ち場のもみ殻のようになり、風に吹き払われて跡形もなくなりました。しかし、その像を打った石は大いなる山となり、全地を満たしました。これがその夢です。今、私たちはその解き明かしを王の前で申し上げます。ダニエル書 2:31-36.

ネブカドネツアルの夢は、彼の時代から終わりの日に至るまで、聖書預言に登場する諸王国を指し示していた。終わりの日には、ネブカドネツアルへの説明においてダニエルによって、また手を触れずに切り出された石によって象徴される十四万四千人の時であり、像で表された地上の諸王国を打ち砕くのはその石で、やがてそれが全地を満たす山となる。この夢は、終わりの日々、すなわち十四万四千人に最後の預言の奥義が明らかにされる預言的な移行点についてのものであった。

真のプロテスタントの角の旗印として、彼らは第三天使のメッセージを滅びゆく世界に運ぶ。そのメッセージは、アメリカ合衆国における日曜法が制定され、獣の刻印が強制される時、大いなる叫びへとふくらむ。その勅令の前に、終わりの時にダニエルによって表されている者たちは、獣の像の試練に直面することになる。その試練は視覚的な試練であり、日曜法の勅令を生み出す運動が、ダニエルによって表されている者たちに見えていなければならない。彼らは、闇に隠された像の試練を見抜くことを可能にする神の方法を選んでいくかどうかを明らかにするために試される。彼らの試練には、個人的なへりくだりと告白が含まれる。それはまた、ダニエルが夢と幻において悟りを与えられていたことを認めることを含む。もし彼らが、荒野で叫ぶダニエルの声を聞くことを拒むなら、それは、キリストの時代にバプテスマのヨハネのメッセージを退けた者たちと同様である。

ホワイト夫人は、ダニエル書と黙示録が互いに補完し合っており、彼女の用いる「補完する」という語は完成へと至らせることを意味すると教えている。2023年7月末、ユダ族の獅子は、猶予期間が閉じる直前にそうすると約束しておられたとおり、イエス・キリストの啓示の封印を解き始められた。その際、以前から正しく理解されていた聖書の真理が示され、今やそれらは終末の時代という文脈で理解されるべきであることが明らかに

された。

それらの真理の一つは、黙示録11章の二人の証人である。もう一つは、黙示録10章の「七つの雷」が完全に成就した歴史である。彼は、2020年7月18日の失望について語る聖なる改革の道筋から、真理を引き出してきた。彼は、それぞれの聖なる改革の道筋にある四つの道標を、第一のメッセージが力を受けてから裁きに至るまでの歴史を示すものとして、これまで認識されてこなかったやり方で用いてきた。ダニエル書2章は、これらの概念の多くを完成へと導くが、「アルファとオメガ」と呼ばれる方法論を取り入れることを拒む者には、これらの深遠な真理は闇の中に隠されたままである。

ダニエル書2章の学びを締めくくるにあたり、同章によって完成されるいくつかの真理と道しるべを要約し、相互に結びつけます。そうすることで、夜の幻のうちにダニエルに明かされた秘密が、まさにこれらの真理そのものを表していることを確認します。

次の記事で要約と結論を提示します。

主は、人々の誤りや霊的な後退に対処するため、主ご自身が定めた器をお持ちである。主の使者たちは、彼らを眠りの状態から目覚めさせ、いのちの尊いみことばである聖書を彼らの理解に開くため、率直な証しを携えて遣わされる。彼らは単なる説教者であってはならず、奉仕者、光の担い手、迫り来る危険を見て人々に警告する忠実な見張り人でなければならない。彼らは、その真剣な熱意においても、思慮深い機転においても、個人的な努力においても—つまり、そのすべての奉仕において—キリストに似る者でなければならない。彼らは神と生きた結びつきを持ち、旧新約の預言と実際の教訓に十分に通じて、神のことばの宝庫から新しいものも古いものも取り出していくことができるようにならなければならない。『証言』第5巻、251頁。